

景観計画策定後の住民・行政・ 専門家の協働によるまちづくり

— 中津川市本町中山道地区を対象として —

TOWNSCAPE IMPROVEMENT COOPERATED BY RESIDENTS, ADMINISTRATION AND SPECIALISTS AFTER ESTABLISHMENT OF LANDSCAPE PLAN

— A case study of Honmachi Nakasendo district
in Nakatsugawa city —

松本直司 — * 1 瀬田恵之 — * 2
岩井一樹 — * 3 長谷川博一 — * 4
高北卓軌 — * 5

Naoji MATSUMOTO — * 1 Shigeyuki SETA — * 2
Kazuki IWAI — * 3 Hirokazu HASEGAWA — * 4
Tsunaki TAKAKITA — * 5

キーワード：
景観計画, 景観法, まちづくり, 本町中山道地区

Keywords:
Landscape plan, Landscape act, Townscape improvement, Honmachi
Nakasendo district

The purpose of this study is to clarify the effects and the problems of the practice process of the townscape improvement in Honmachi Nakasendo district in Nakatsugawa city. The process is cooperated by residents, administration and specialists. Following results are obtained; 1)Townscape improvement practice plan is established. 2)Residents come to recognize the landscape plan exactly and tend to try environment improvement. 3)Administration starts moving to the next stages. 4)And the leader of the residents seem to be cultivated.

1. はじめに

1-1 背景・経過

景観法が2004年6月に公布、同年12月に施行された。以降、2009年5月1日までに全国の172の自治体で景観法に基づく景観計画（以下、景観計画）が相次いで策定された^{注1)}。一方、国では文化財行政とまちづくり行政が連携して一体的にまちづくりの取り組みを支援することを目的とした「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」（通称：「歴史まちづくり法」）が2008年5月23日に公布、同年11月4日に施行した。これにより国からの財政・税制の支援が可能となった。景観計画に基づいてまちづくりを実践する段階に入ったといえる。

岐阜県中津川市は、2005年3月に景観行政団体となり、景観計画の策定に着手し、2007年7月に全国でも先進的に景観計画が策定された。その策定段階から、筆者らも専門家として参加してきた。2008年には、本町中山道地区において、住民を中心に「本町中山道景観協議会」が立ち上げられるなど、景観計画を基にして住民主体のまちづくりが行われようとしている。

1-2 目的

住民主体のまちづくりを実践するには、住民が自分達で実践計画をつくり行政へ提案し、実行していくという自立的、主体的取り組みが求められる。そのためには、住民の先頭に立って、住民の意見や提案をまとめるリーダーが必要である。また、住民の具体的なまちづくり活動を支えるために行政と都市計画の専門家のサポートが不可欠である。したがって住民、行政、専門家が連携してまちづくりが促進される実践計画の作成が必要である。景観法が施行されて

間もなく、筆者らの知るところでは参考となるような実践計画に向けてのまちづくりプロセスの事例は未だない。そこで本研究では中津川市本町中山道地区を対象地区として、住民が主体となり、行政、専門家と共に実践計画作成のためのまちづくりのプロセスを構築して適用しその有効性と課題を明確化したのでここに報告する。

1-3 対象地区の現状

中津川市景観計画は市全域を景観計画区域としているが、本町中山道地区は、旧中山道の中津川宿として栄えた歴史的特徴を持つ地区で、中津川市の景観計画重点区域^{注6)}の一つである（図5）。対象地区の景観^{注2)}は、道路形状、一部開渠の水路、江戸期の歴史的建物などに、宿場町であったものを残している。対象地区は市の中心市街地で、住宅や商店が多く、新しい形態の建物も増えており、新旧が混在した地区である。

1-4 活動組織とまちづくりのプロセス

対象地区では、景観計画策定後に「これからの本町をどんな街にすべきか」など、住民の意見をまとめるために住民組織である「本町中山道景観協議会^{注7)}」（以下、協議会）が2008年3月に設立された。さらに同年6月には住民代表、行政、専門家の3者からなる

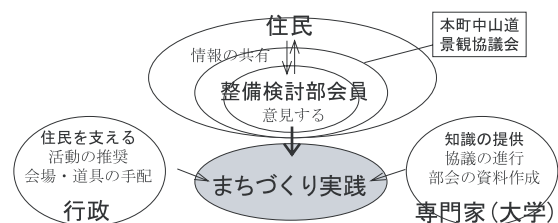


図1 組織別役割構成^{注4)}

¹⁾ 名古屋工業大学大学院工学研究科 教授・工博
(〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町)

²⁾ 名古屋工業大学技術グループ技術企画チーム 博士(工学)

³⁾ 名古屋工業大学大学院 博士前期課程

⁴⁾ 矢作建設工業(株) 修士(工学)

⁵⁾ ㈱伊藤建築設計事務所 修士(工学)

¹⁾ Prof., Graduate School of Engineering, Nagoya Institute of Technology, Dr. Eng.

²⁾ Nagoya Institute of Technology, Dr. Eng.

³⁾ Nagoya Institute of Technology

⁴⁾ YAHAGI CONSTRUCTION CO., LTD., M. Eng.

⁵⁾ ITO ARCHITECTS & ENGINEERS INC., M. Eng.

本町中山道景観協議会整備検討部会（以下、整備検討部会、メンバーを部会員とする）を立ち上げた。

本研究で実践したまちづくりのプロセスは、この整備検討部会の活動を中心に進めた。図1に各組織の役割分担を、表1にその活動概要を示す。まちづくりを実践するために、整備検討部会の部会員は住民の代表として、意見し、牽引することを担った。また、行政は活動の推奨、会場・道具の手配等により住民のサポートをし、専門家とは参加した筆者らであり、住民の意見のとりまとめ、協議の進行、資料の作成等、知識の提供により、住民活動を支援した。

2. 整備検討部会のまちづくり意向の把握

2-1 対象地区の現状把握

現状景観を把握するため、部会員が対象地区を踏査し、「良いところ」、「気になるところ」、「悪いところ」の写真を撮影した。それらの写真を地図に貼り付け、部会員が、各自の意見をカードに記入し、該当する写真に貼り付けた(図2)。それらの集計結果を図3に示す。「良いところ」として、『案内板がよい』、『店の雰囲気が良い』といった雰囲気や心遣いなどの意見が多くみられた。「気になるところ」は『休憩所に一工夫してほしい』、『駐車場を工夫してほしい』といった変えればよくなるものに対する意見が多い。また「悪いところ」として、『色が街並みに合わない』、『看板の色が派手』など色や素材等に対する意見が多かった。

2-2 まちづくり意向の把握

日常生活の評価とまちづくり活動についての住民の意向を把握するため、「重要なところ」、「困っていること」、「これまでにを行った活動」、「これから行いたい活動」についての部会員から意見を収集した。その結果を図4に示す。「重要なところ」は『古い街並み』、『伝統的な建物』などの歴史的なもの、また『仲が良い』といった住民の意識についての意見が多い。また、「困っていること」では、『駐車場が少ない』、『トイレがない』など来訪者に対する意見や『高齢化』など生活に関する意見が出た。「まちの

表1 まちづくりのプロセスと整備検討部会の活動内容^{注5)}

整備検討部会	まちづくりのプロセス	主な活動内容	参加者				月日
			部会員	行政	専門家	合計	
第1回	整備検討部会のまちづくり意向の把握	今後の活動について	8	4	4	16	2008年6月13日
第2回		対象地区の現状把握	10	4	8	22	6月24日
第3回		まちづくり意向の把握	12	4	6	22	7月3日
第4回	地区住民の意向の把握	前回までのまとめの発表 地元アンケート打ち合わせ	9	4	6	19	7月22日
第5回		地元アンケート内容発表	9	4	6	19	8月5日
第6回		地元アンケート集計結果発表 本町を模型で修景	13	4	4	21	9月9日
第7回	まちづくり実践計画の作成	模型で修景した本町の写真を評価	10	4	4	18	10月9日
第8回		模型で修景した本町を視点を交えて意見交換	6	4	4	14	10月22日
第9回		本町中山道地区の将来像を作成	12	4	6	22	11月27日
総会	まちづくり実践計画の情報共有	協議会総会の開催	32*	4	3	41	2009年2月2日

※一般住民を含む



図2 対象地区の現状把握の様子

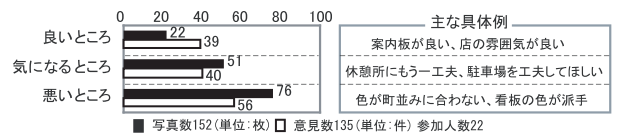


図3 対象地区の現状についての意見集計結果

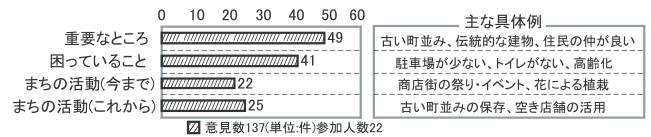


図4 まちづくり意向についての意見集計結果

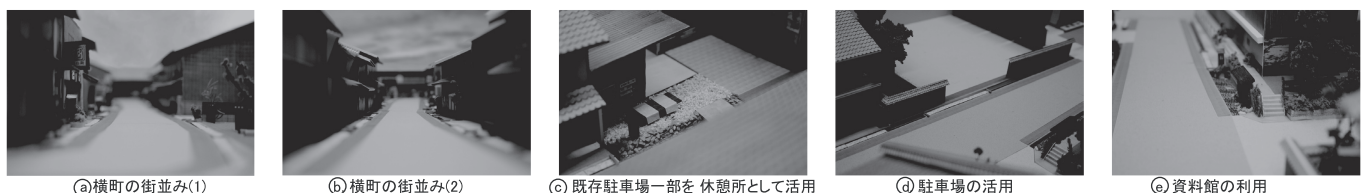
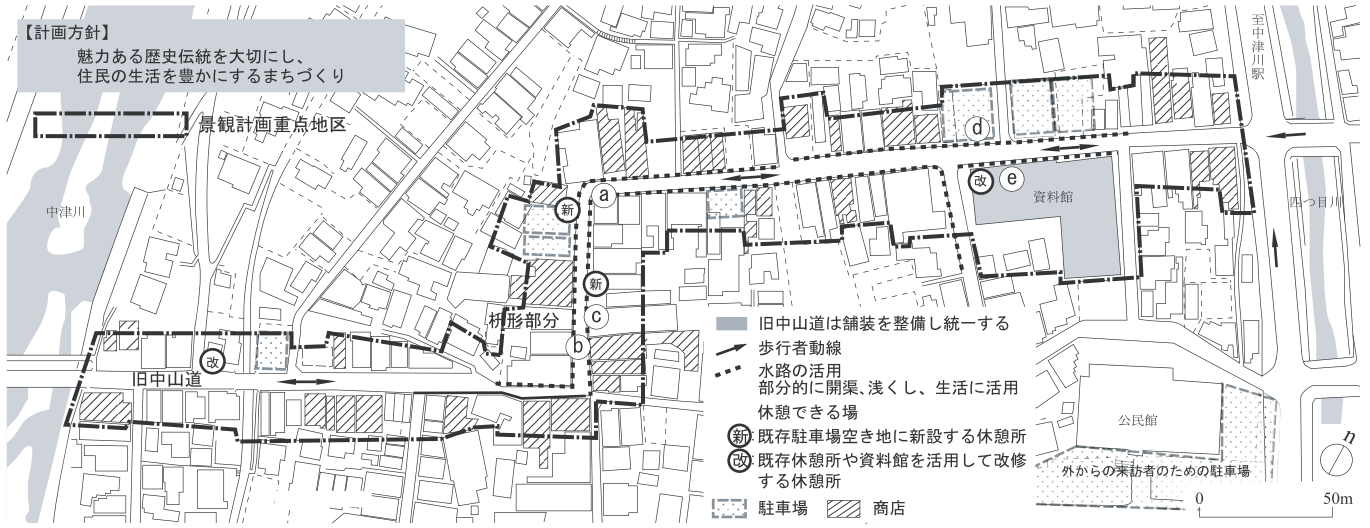


図5 本町中山道地区のまちづくり実践計画図

活動（今まで）」では、『商店街の祭り・イベント』、『花による植栽』など、「まちの活動（これから）」では『古い街並みの保存』、『空き店舗の利用』などの具体的な意見が多くみられた。

2-3 まちづくり意向の内容の整理

整備検討部会で得た意見をその類似性にもとづき分類し、整理した結果を図6に示す。意見を、「まちづくりに対する意見」と「本町に対する意見」に2分類し、その内容を、「現状評価」、「将来イメージ」、「まちづくり行動の意識」に3分類した。

①「まちづくりに対する意見」 「将来イメージ」として『風情のある田舎らしいまち』、『新しいものと古いものが共存するまち』などである。「まちづくり行動の意識」として「まちづくりの課題」（『景観計画の遂行』、『リーダーの存在』、『住民の手でおこなう』など）、「これまで行ってきたこと」（『組織づくりをおこなってきた』、『全国発信を行ってきた』など）である。「現状評価」については、意見がなかった。

②「本町に対する意見」 「現状評価」として、『今の景観を大切ににする』、『古い街並みや伝統的な建物が重要である』など、住民が重要と感じているものに多くの意見が出た。一方では『駐車場が足りない』、『交通量が増加』、『建物が老朽化』、『街並みのバランス』、『高齢化が進んでいる』などの困っていることの意味も多い。また『資料館が入りづらい』、『トイレが少ない』、『お土産屋がない』といった来訪者へのサービスに関する意見も出された。これらは部会員が現状のまちについて日頃感じている内容である。

「将来イメージ」として、『町を大切ににする』、『生活機能の充実』、『街並みに秩序が必要』、『活気・にぎわいがよい』、『来訪者に対してもてなしをする』で、これらは、部会員がまちをどうしたいかと考えている内容である。

「まちづくり行動の意識」として、『古い街並みを保存し、伝統的な建物を補修・改修する』、『歩道を整備する』、『外壁の色・素材を変える』、『建物の周囲に植栽を植える』、『電柱を地中化・移設する』など具体的な意見が多く出たが、これらは、部会員がまちづくりについて、こうしたらよい、こうしたらよい、こうすべきと、思っている内容である。これらのまちづくり意向の内容は部会員のみの意見を基にしたものであり対象地区住民全体の意向ではない。そこでアンケート調査で住民の意向を把握することにした。

3. 住民のまちづくり意向の把握（住民アンケート調査）

本町中山道地区住民のまちづくり意向の把握を目的として、対象地区の全世帯（75戸）に住民アンケート調査（総会前のアンケート）を行った。図7に住民アンケートの作成の流れを示す。調査内容は、図6の整備検討部会のまちづくりの意向をもとに、住民が感じていること（現状評価）、考えていること（将来イメージ）、こうしたらよい、こうしたらよいこと（まちづくりの行動意識）から質問項目の選定を行った。質問項目は、回答者属性（性別、年齢、本町で商売を行っているかどうか）、居住建物（建築年代、居住歴、所有形態）、「本町の現状評価」として魅力・誇りとなるもの、現状評価、「将来イメージ」および「まちづくりに対する行動」として景観形成に必要なこと、できること、である。アンケート配布は8月5日、回収は9月21日までとした。アンケート用紙の配布・回収は整備検討部会の部会員に協力頂いた。配布数75、回収数62で、回収率は82.7%であった。表2に回答者属性を、表3に居住建物について示す。

	現状評価	将来イメージ	まちづくり行動の意識
まちづくりに対する意見		風情のある田舎らしいまち 共存するまち（平成の中山道） 新しいものと古いものが共存するまち（容量） 善光寺のようなまち 馬籠のようなまち	まちづくりの課題 ・景観計画の遂行 ・リーダーの存在 ・住民の手で行う ・住民意識の共有 ・住民意識の活性化 ・全住民の意見を聞く これまで行ってきたこと ・組織作りを行ってきた ・全国発信を行ってきた ・自主的な活動を行ってきた
本町に対する意見	町を大切ににする ・今の景観を大切ににする ・古い街並みが重要である ・伝統的な建物が重要である ・商店が重要である ・四つ目川が重要である ・水路が大切	町を大切ににする	古い街並みを保存する ・伝統的な建物を補修・改修する、見学できるようにする
	生活機能の充実 ・建物の老朽化 ・交通量の増加に困っている ・駐車場 数が足りない（容量） ・駐車場 そばにほしい（場所） ・歩道 ・街路灯 暗い（場所）	生活機能の充実	歩道を整備する
	街並みに秩序が必要 ・街並みを統一すべき ・街並みに合わないものがある ・街並みのバランスに困っている	街並みに秩序が必要	・外壁の色・素材を変える ・建物の周囲に植栽を植える ・ガレージに塀をつける ・看板を統一したデザインにする、木製にする ・建築設備に囲いをする ・駐車場に植栽を植える、塀をつける ・路面を変える ・水路を閉塞にする、素材を変える ・街路灯を統一・修復する ・公共電話に囲いをする ・電柱を地中化・移設する
活気・にぎわいがよい ・仲が良いことが重要 ・元気なことが重要 ・商店の活気があってよい ・商店の活気がない ・お店の魅力（雰囲気）が重要 ・お酒・お菓子が重要 ・空き店舗がある ・後継者がいない ・中山道祭りを行ってきた ・大通市を行ってきた ・空き家が増えている ・人通りが少ない ・高齢化が進んでいる	活気・にぎわいがよい	・空き店舗を活用する ・シャッターをデザインする	
もてなしをする ・案内・解説板を整備する ・資料館が入りづらい ・資料館を入りやすく（施設） ・資料館をわかりやすく（内容） ・ベンチを用意する ・休憩所を工夫する ・トイレがない ・お土産屋が少ない ・お土産屋がない	もてなしをする 来訪者に対して		

感じていること

考えていること

こうしたらよい
するべきこと

図6 整備検討部会のまちづくりの意向

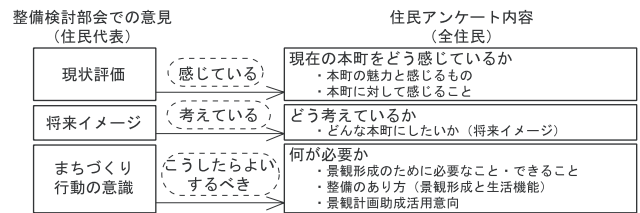


図7 住民アンケートの作成の流れ

表2 回答者属性

回答者属性	人	割合
性別		
男性	32	52.5%
女性	29	47.5%
無回答	1	1.6%
年齢		
40代	11	18.0%
50代	15	24.6%
60代以上	36	59.0%
本町での商業		
行っている	34	55.7%
行っていない	28	45.9%

表3 居住建物について

居住建物	人	割合
居住建物の建築年代		
江戸以前	6	9.8%
明治・大正	11	18.0%
昭和40年代以前	15	24.6%
昭和50年代以降*	25	41.0%
不明	5	8.2%
居住歴		
10年未満	2	3.3%
10年から20年未満	8	13.1%
20年から30年未満	8	13.1%
30年以上	44	72.1%
居住建物の所有形態		
自己所有	54	88.5%
借用	6	9.8%
その他	1	1.6%
無回答	1	1.6%

* 昭和50年前後のオイルショックを境に建物構造に変化があった。

3-1 本町中山道地区の現状評価

図8に本町中山道地区の魅力・誇りとなるもの回答結果を示す。「旧中山道宿場町という歴史」、「四つ目川や恵那山などの自然」、「伝統的建物が残っていること」が5割以上で、住民の多くが歴史、自然、伝統に魅力、誇りをもっていることがわかる。

図9に本町中山道地区の現状評価の回答結果を示す。「全体特性」では『本町に愛着を持っている』と思う人（「やや思う」人と「すごく思う人」人の合計とする。以下、同様）が5割を超えている。「生活」では『子どもの遊ぶ場所が十分にある』と思わない人が6割を超えている。「商店街」、「街路」では全体的に評価が低い。「交通」では『道路幅が狭い』と思う人が5割を超え、『自動車の交通量が多い』と思う人も4割いる。「経年変化」では『住民の高齢化が進んでいる』と思う人が9割を超え、『建物の老朽化が進んでいる』と思う人も7割を超えている。以上から、住民の多くは、地域に愛着を持っており、治安も良いが、子どもの遊び場所も少なく、商店街も活気が無く人通りも少なくさびれておりと感じており、交通については道路幅も狭い割に交通量が多く駐車場も不足していると感じ、住民も高齢化して建物も古くなっていると感じていると考えられる。

3-2 本町中山道地区の将来イメージ

図10に本町中山道地区の将来イメージの回答結果を示す。「生活」の項目はどれも評価が高い。特に『歴史ある街並みを大切に残していくまち』と思う人が8割である。「更新」の項目では、『新しいものと古いものが共存するまち』と思う人が5割である。このように住民の多くは、将来イメージとして、地域の歴史を大切に、生活空間、商業、観光などの住民の生活を良くしたいと考えている。また、雰囲気として緑や街並みに秩序や統一感があり、落ちついていて新旧が混在したまちを考えている。

3-3 まちづくりの実践行動意識の把握

図11に景観形成のためにできること、図12に景観形成に必要なことの回答結果を示す。

景観形成のためにできることについては、どの項目も全体的に回答が少ないが、『景観計画をよく知り、活用する』、『自主的に街の清掃をする』といった費用を伴わない項目の回答が他の比べて多い。一方、景観形成に必要なことについて、「個人」では『住民の意識を共有する』が7割である。「個人:助成対象」では、『建築設備に囲いを設ける』が6割で、以下多い順に、『屋根・外壁等を街並みに合わせる』、『看板のデザインや素材を統一する』と続く。「協力」では『休憩できる場所を設ける』が約5割で最も多い。「公共整備」の項目では『街路灯を整備する』が最も多い。以上から、住民の多くは、まちづくり行動の意識として、個人としては、住民意識の共有、自主的な街の清掃、景観計画の活用、住民組織への参加が必要と考えたとともに建築設備に囲いを設ける、建物の屋根・外壁等を街並みにあわせるなどの積極的な取り組みが必要と考えている。また、休憩できる場所を設けることに協力することや街路灯の公共整備が必要と考えている。

4. まちづくり実践計画の作成

4-1 先進地視察 (図13参照)

部会員の意向により、視察の結果を、本町中山道地区のまちづくりに活かすことを目的として、まちづくりの先進地の視察を行った。視察は協議会の活動を兼ねて町内親睦会を活用した。視察地

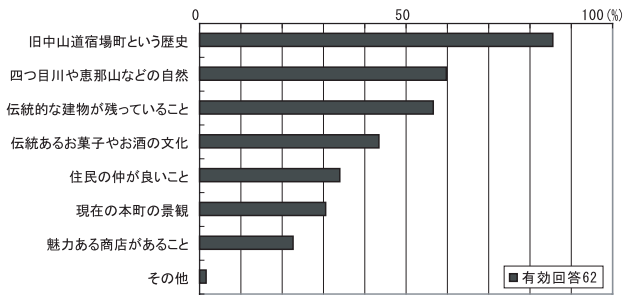


図8 本町中山道の魅力・誇りとなるもの

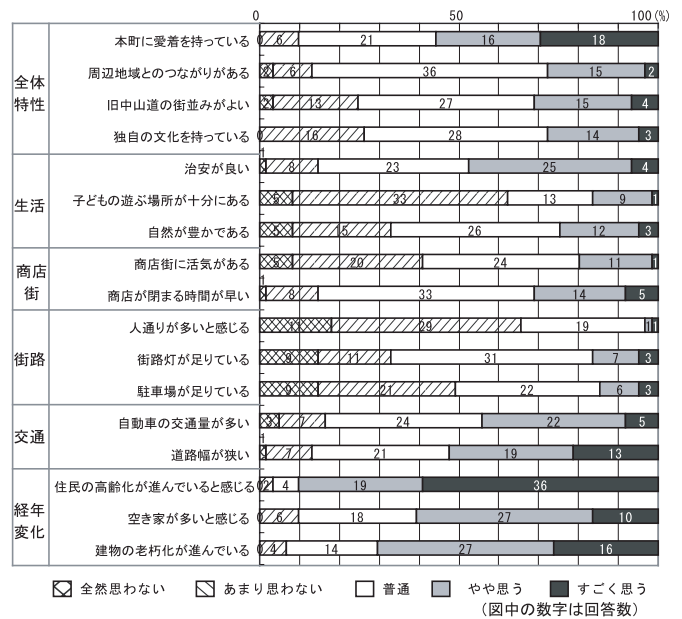


図9 本町中山道の現状評価

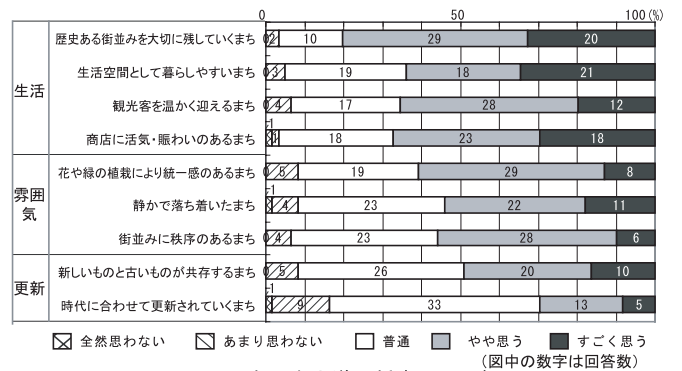


図10 本町中山道の将来イメージ

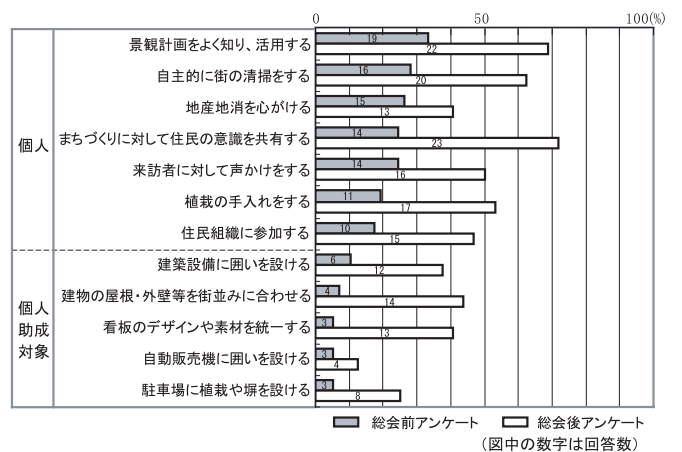


図11 景観形成のためにできること(総会前と総会後のアンケート結果の比較)

は、岐阜県美濃市美濃町、美濃加茂市太田宿、恵那郡岩村の3箇所とした。参加者は33人であった。視察旅行を実施した効果として、その後の整備検討部会で部会員より具体的な意見が出るなどの効果があった。

4-2 まちづくり修景案の作成と改善

住民が実践計画作成に参加するため、専門家が紙で作成した現状模型（縮尺1/50）を用意し、模型を活用しながらまちづくり方法を模索し、イメージを具現化した。図14に修景案の作成状況の様子を示す。

(1) 現状再現模型を使った修景案作成（9月9日） 本町中山道地区の修景（街並みを改善）を行った際の修景イメージを把握し、どんな修景方法があるかを検討した。紙でつくった本町中山道地区の一部の現状再現模型を使って、修景を行う。具体的には紙のパーツをもとに、模型に直接、切り貼りしながら建物壁面、電柱、水路、植栽、看板、ベンチ、路面を変更していく。その他考えられる修景方法、模型では表現できない方法をカードに記入し、模型に貼り付けていく方法とした。

(2) 日常生活の視点を考慮した修景案の改善（10月9日） 修景した後の本町の日常生活について考え、修景提案をより良いものとする意見交換を目的として前回（9月9日）に得た意見をもとに専門家が作成した3種類の模型写真（現状再現模型、前回作成した模型、前回の意見をまとめて作成した模型）を用意して整備検討部会の部会員へ説明した。次に4グループに分かれて3つの模型写真を比較して、その印象、修景によるメリット、デメリットに対する意見をグループ毎にまとめ、部会員全体で意見交換した。図15に模型写真（現状再現模型、前回の意見をまとめて作成した模型）の例を示す。

(3) 視点を変えた修景案の再検討（10月22日） 修景案をさらにより良いものとするために修景した後の本町の生活について視点を変えて考え、意見交換を行った。方法としてキャラクター（人物像）の視点、どんなまちか（まちの方針）の視点から修景後の生活のメリット、デメリットを考えるブレインストーミングを行った。用意したキャラクターは、「小学生」、「老人」、「日用品の商店主」、「お土産屋の商店主」、「会社員（本町以外で働いている）」、「観光客」、「本町で新しく生活を始める人」の7種類。用意したまちの方針は、「生活空間として暮らしやすいまち」、「商店に活気・賑わいのあるまち」、「歴史ある街並みを大切にしていきたいまち」などの9種類とした。

このように視点を変えたことで新たに出た意見として、「休憩所がほしい」、「水路が危険」といった具体的なまちづくり方法に対する課題が多くみられ、より踏み込んだ意見を得ることができた。

4-3 まちの将来像の作成

整備検討部会からの提案として具体的なまちの将来像を作成した。修景によるまちづくりに必要だと思われる5項目（①電線の地中化 ②中山道の舗装 ③水路の改修 ④街路灯の新設 ⑤統一看板・植栽）について住民アンケート結果や、視察した先進地の事例を参考にして意見交換を行った。部会員から得たまちづくりの実践計画の提案を図16に示す。「電線の地中化」「建物の修景」「植栽」などに関して住民の意見を収集するときに模型を使うことで修景後のイメージをつかみやすいように工夫した。その結果、まちづくり後のメリット（効果）は、「客力、観光客の増加」「快適で過ごしやすくなる」等が挙げられ、デメリット（課題）は、「個人の

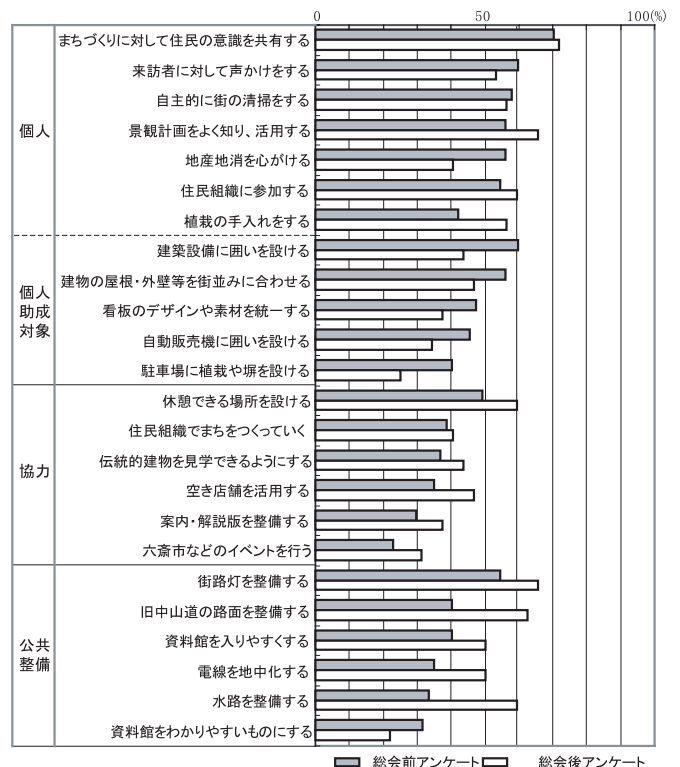


図12 景観形成に必要なこと(総会前と総会後のアンケート結果の比較)



図13 先進地視察(2008年9月21日実施)



図14 修景案の作成状況の様子

努力、協力が必要」「誰のためか(目的)」「交通への影響」などが挙げられている。まちの将来像として「水路の改修は生活に活用できるように」、「植栽はこれまで通り」などのより具体的な提案が行われた。

4-4 まちづくりの実践計画

整備検討部会でまとめられた、まちの将来像を基に、まちづくりの実践計画図を作成した(図5)。計画方針は、住民アンケート結果と整備検討部会での意見で歴史の重要性、生活機能の充実が挙げられていることから、「魅力ある歴史伝統を大切にし、住民の生活を豊かにするまちづくり」とした。計画内容は、この計画方針の基にして①旧中山道については舗装をし、統一する。②水路については部分的に開渠にする、浅くして生活に活用できるようにする。③休憩できる場として既存駐車場や空き地に新設したり、今あるものを改修したり資料館の活用を行う。とした。

5. まちづくり実践計画の情報共有

5-1 本町中山道景観協議会総会の開催

今までの整備検討部会の活動内容と「まちづくりの実践計画」について住民と情報共有するため本町中山道景観協議会の総会にて発表した。会場内には景観修景後のまちなみ模型や整備検討部会で作成した資料をパネル展示した。参加住民の人数は32名であった。

5-2 総会後の住民のまちづくり行動意向調査

これまでの整備検討部会でのまちづくりの活動の効果を検証するため、景観形成のために必要なことと景観形成のためにできることについて8月に行った住民アンケート（総会前アンケート）と同じ質問項目で住民アンケート調査（総会后アンケート）を行った。回答者数は32人であった。これらのアンケート結果の比較を図11、図12示す。

(1) 総会後のまちづくり行動意向 景観形成のために必要なことについて「個人」では『まちづくりに対して住民の意識を共有する』、『景観計画をよく知り活用する』が6割を超えている。「協力」では『休憩できる場所を設ける』が約6割で最も多い。「公共整備」では『資料館をわかりやすいものにする』を除き全てが5割以上である。景観形成のためにできることについては、「個人」ではすべてが4割以上であり、住民のできることに対する意向は高いと考えられる。

(2) まちづくり活動の効果 景観形成のためにできることについて、総会前に比べて全ての項目で回答率が大幅に増えている。総会后では住民にできるという意識が高くなっており、これは、整備検討部会で行われた模型を活用したまちづくりの実践計画の協議やまちの将来像の提案などの活動の効果が現れているためと考えられる。

6. まとめ

本研究で、適用したまちづくりのプロセスの有効性と課題についてまとめると以下の通りである。

- ①住民、行政、専門家の主体的な参加によって各組織が機能し、住民の意識を把握し、まちづくりへの参加を促したことで、活動の成果として住民主体のまちづくりの実践計画図（図5）としてまとめられた。
- ②整備分科会の活動終了後に、具体的に建物の改修をしたいという住民も現れたり、電柱地中化の問題について話し合うなど、住民が自立して動くようになってきた。そのため行政も積極的に次のステップに踏み出そうとしている。
- ③まちづくりのプロセスの中で行った2度のアンケート結果の比較から回答者の意識の向上が明確にみられた。このプロセスは、まちづくりの実践計画の作成に対してだけでなく住民意識の向上に対しても有効であると考えられる。
- ④整備検討部会の部会員が積極的に取り組み、まちづくり実践のリーダーとして今後の活躍がおおいに期待される。リーダーの成立とまちづくりの実践が今後の課題である。

謝辞

本研究は、住民・行政・専門家の3者の密接な連携のもとに進められたが、専門家として参加した筆者らが代表してまとめさせていただいた。本町中山道景観協議会の会長である原達朗氏をはじめとする構成員の皆様、中津川市の基盤整備部都市整備課の渡邊弘孝氏をはじめとする皆様の多大な尽力なくして本研究は成立しないところである。ここに謝意を表す。

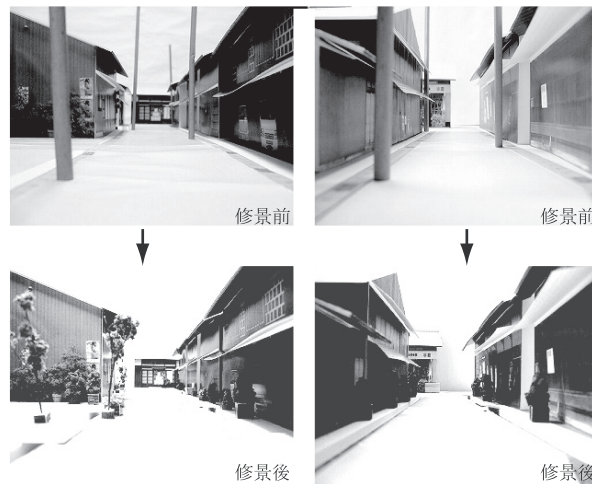


図15 模型写真(現状再現模型、前回の意見をまとめて作成した模型)の例

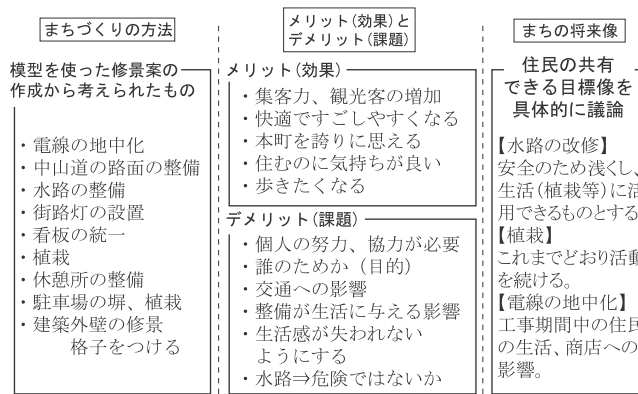


図16 まちづくり実践計画への提案

注

- 注1) 国土交通省・地域整備局都市計画課:景観:良好な景観の形成(国土交通省景観室, <http://www.mlit.go.jp/crd/townscape/index.html>, 閲覧日2009.6.17)
- 注2) 長谷川博一・他,:旧中山道中津川宿・落合宿・馬籠宿の景観要素特性-街並みの景観計画に関する研究(その1)-,日本建築学会東海支部研究報告集,第45号,pp.633-636,2007
- 注3) 小田憲治・他,:旧中山道中津川宿・落合宿・馬籠宿の建物特性-街並みの景観計画に関する研究(その2)-,日本建築学会東海支部研究報告集,第45号,pp.637-640,2007
- 注4) 小島孜:創造的合意形成に向けての方法論考察 芦屋西部地区復興まちづくりの中間総括,日本建築学会計画系論文集,第524,pp.327-332,1999
- 注5) ワークショップ参加者は、住民が景観協議会整備検討部会を中心とした対象地区住民、行政が中津川市役所職員、専門家は名工大松本研究室教授・学生である。
- 注6) 市内には、旧中山道の馬籠宿、落合宿、中津川宿の3地区があるが、中津川宿が最も中心的な宿場町であった。
- 注7) 2008年2月に市からの呼びかけで協議会の設立準備委員会ができ、専門家からも景観計画を実行するには地元組織が必要であるとアドバイスを受けて地元の町内会、振興組合や中山道こまちの会など、まちづくり組織のメンバーが主体となって設立された。

参考文献

- 1) 松本直司・他,:中山道 ふるさとの街並みと建築 美濃路と木曾路をつなぐまち-中津川宿・落合宿・馬籠宿-,電気書院,2008.6.30
- 2) 岩佐明彦・西村信也・他,:住民-学生協働によるまちづくり-新潟県栃尾市表町におけるケーススタディ,日本建築学会技術報告集,第16,pp.217-220,2002
- 3) 佐藤滋・他,:まちづくりデザインゲーム,学芸出版社,2005
- 4) 自治体景観政策研究会・他,:景観まちづくり最前線,学芸出版社,2009

[2009年6月19日原稿受理 2009年8月28日採用決定]